

未病ケアの実践活動を通じて少子高齢社会での健康と生き甲斐を享受し、地域の活性化に寄与する。

<b>取組開始時期</b>	2019年より	<b>取組の カテゴリー</b>	⑧健康福祉	<b>応募部門 (○を付ける)</b>	○	<b>PF会員間連携部門</b>		<b>一般部門</b>
<b>1. 団体名</b>	日本未病総合研究所		<b>2. 連携先 の団体</b>	◎外務省、◎厚生労働省 千葉県印旛郡栄町、三重県四日市、◎長野県上田市、台湾友の会、森林浴有魅力グループ（中国系）				
<b>3. 取組 目的</b>	少子高齢時代、自らが自分の身体に鋭くなり未病のままで100歳をめざす社会活動を行っている。e-ラーニングを通じて未病サポーターを育成している。地域社会で健康・未病ケアのリーダーとなることで生き甲斐になり、地域の産業活性化にも繋がる。				<b>4. 関連する ゴール</b>	  		

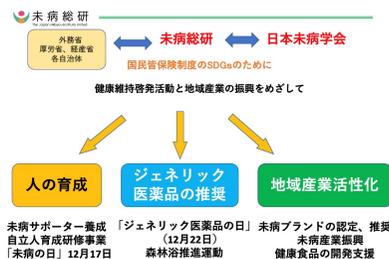
### 5. 取り組み経緯

- ①20年7月は外務省の協力を受け「SDGsと未病」のフォーラムを行った。さらに12月には記念日として「ジェネリック医薬品の日」を新たに創設、制定し啓発活動を行った。厚労省をはじめ、地方自治体（千葉印旛郡栄町、三重県四日市市自治体）と連携した。さらに在住外国人組織と連携し協力を得た。
- ②21年9月は経産省と連携し「健康経営と未病ケア」のフォーラムを開催した。

### 6. 未病総研は人の育成、国民皆保険制度の持続、地域産業の活性化に取り組んでいます。

未病総研メソッドの下に未病サポーター(未病ケア指導員)の養成、ジェネリック医薬品の推奨。を行っている。未病サポーターは地方での中高年者の健康と生き甲斐にもなっている。企業においても“健康経営”を補完するとして評価をされてきている。

### 画像（会員投票の際のサムネイル）



### 取組のポイント（3つの視点）

#### 地方創生SDGsの視点

e-ラーニングにより地方での「未病サポーター」を養成している。地域での老人クラブなどでリーダーとして健康相談にのり、地域での健康産業活性化にも寄与している。昨年度は未病サポーターの方に「ジェネリック医薬品の日」の普及に協力してもらい、医療費の適正化などへの意識が高まった。国民皆保険制度のSDGsをめざす。

#### ステークホルダーとの連携

昨年は新たな記念日として「ジェネリック医薬品の日」（12月22日）を登録し、啓発するに当たって、厚労省、足立区役所、印旛郡栄町、四日市市自治体と連携した。さらに協会けんぽ、健保連らと連携した。日本保険薬局協会が積極的に協力した。今年は「健康経営」を通じて経産省、協会けんぽ、中小企業会社らと連携した。

#### モデル性・波及性

第三の心身状態としての「未病」を啓発する未病サポーターの地方への普及活動は高齢社会での新たな生き甲斐と産業を生むモデルとなった。また「ジェネリック医薬品の日」（12月22日）を普及するに当たり、在日外国人（中国系、台湾系）グループにも未病という概念は通じ、波及した。現在、未病サポーターは「健康経営」を補完するモデルとして期待がもたれ波及が見込まれる。

## 7.取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

一般社団法人 日本未病総合研究所（未病総研）は「現代未病」という立場から、一般人に「自分でケア出来る未病の範囲」を示しそのケアの仕方を習得してもらう事を目的に社会啓発活動を行っております。代表理事の福生吉裕は日本未病学会の設立者として未病を実社会で活用出来るよう未病総研メソッドとして立ち上げ推奨しています。（上記記載）。

まず未病サポーターの養成事業を行っております。これは健康維持と社会活動への参加、そして地域社会での健康啓発リーダーとしての生き甲斐を得て、地域産業へのアドバイスなども行ない地域の活性化に貢献していただいております。そしてSDGs運動に共鳴する地域産業を「未病総研ブランド100」として表彰し活性化に努力しております。

【これまでの活動と成果】

① 2020年7月。外務省と連携し、「ポストコロナ時代のSDGsと未病」というテーマでフォーラムを開催しました。

ウイズコロナという制限のある状況下で持続可能な健康維持システムの重要性を啓発しました。まさしくSDGsを念頭に置いた未病の概念はウイズコロナ禍で適し、未病サポーターとしての参加者が増えております。学習方法としてはオンラインでのe-ラーニングを取り入れ、未病サポーターの育成、研修を行い、現在普及しつつあります。日本薬科大学での授業で行われているが今後広く企業や自治体での活用される事を望んでおります。

② 2020年12月には少子高齢時代に伴う医療費の増加を適正化するジェネリック医薬品の使用割合率80%をめざすため新たに記念日として「ジェネリック医薬品の日」（12月22日）を創設しこれを啓発いたしました。連携は厚労省はじめ協会けんぽ、健保連、日本保健薬局協会、それに足立区、千葉県印旛郡栄町、三重県四日市市値自治体、上田薬剤師会それに企業としては甲陽ケミカルが連携しました。報告は（ジェネリック医薬品の日記念講演会）として学士会館で開催。

自治体での参加協力を求めるのに地域の未病サポーターの方々が活躍してくれました。また、日本在住外国人にジェネリック医薬品の使用を願うのに中国系団体、台湾系団体も共に協力してもらったのは望外の成果となりました。

③ 2021年9月には経産省と連携し、「健康経営と未病ケア」でフォーラムを開催し、未病サポーターの健康経営における役割などを検討しました。

現代未病を基本とする未病サポーターの企業の取り入れは「健康経営」にとって有力な補完システムになることが期待されました。

④ 健康産業界でSDGsへの意識の高い企業を応援するため、規格などを作り「未病総研ブランド100」として表彰出来ました。

【今後の方針】

「未病」という文字は漢字文化圏の国民は読むことが出来ます。しかしその内容理解には温度差があります。未病を意識し自らが心身をケアするのが「現代未病」の理念です。

未病総研ではこのような現代未病の概念と理念を活用し、AI、デジタル化、精密医療を取り入れ、進化した未病として発信し地域の医療システムのSDGsに寄与したいと考えております。

また、人生100歳時代が求められるようになってきました。どこも健康でというより、痛くも痒くもない未病のまま100歳をめざすソフトランディングを提唱していきます。

さらに少子高齢社会を迎える東アジア未病文化圏（日本、韓国、台湾、中国）と共にこの未病という資源を活用してもらおうべく働きかけていきます。



東アジア4ヶ国（中国・韓国・台湾・日本）をはじめ、少子高齢社会を迎える各国との連携を深め、未病政策提言などを行い、共通の課題である高齢化対策としての「未病」を推進します。



日中未病研究会（左側）



日韓未病研究会（右側）



日台未病研究会（右側）



台湾医師会総会との会議



韓国日本大使館との会議